

# 戦闘機・飛行訓練再開中止を申し入れ

12月9日、百里基地所属のF15戦闘機が茨城県沖合い約50kmで訓練飛行中、垂直尾翼の先端部が破損し、重さ約2kgのアルミ製部品が落下した事故に対して、百里基地に提出した申し入れ書です。2011年12月12日、午前11時に百里基地に申し入れました。

2011年12月12日

航空自衛隊百里基地  
基地指令 大浦弘容 殿

茨城県平和委員会  
水戸市見川5-127-281

## 申し入れ書

新聞等、マスコミは、航空自衛隊百里基地で、「12月9日、百里基地所属のF15戦闘機が茨城県沖合い約50kmで訓練飛行中、垂直尾翼の先端部が破損し、重さ約2kgのアルミ製部品が落下した」「基地周辺を捜索したが、部品は見つからず、被害報告もない」「原因は不明だが、同型機の訓練は継続する」と発表たと報道しました。

落下したのは、尾翼の振動を押さえる「マスバランス」と呼ばれる円筒状のアルミ製の部品の一部で、直径5cm、長さ25cm、重さ2kgほどだといえます。

さらに前日の12月8日にも、百里基地所属の別のF15戦闘機から、搭載していた模擬ミサイルの先端部を覆うガラス製部品（重さ約70g）が落下しました。しかも、「地元自治体や警察には伝えたが、いたずらに住民を不安にさせるので、公表していなかった」といいます。事故を起こした当事者として、全く責任を感じていない発言です。

大浦弘容百里基地指令は、上記の2つの事故に関し、「基地周辺の皆さんにご迷惑をかけたことは遺憾で、入念な点検と整備に努め、再発防止に努めていきたい」と話したといい、これに対し、県生活環境部の丹勝義危機管理監は、「2日連続のトラブルなどで、重大な事と受け止めている。県としても百里基地に対して、原因究明と再発防止を文書で申し入れたい」と話しています。

本年7月には那覇基地所属のF15戦闘機が、沖縄本島沖の東シナ海に墜落しています。また、10月には石川県の小松基地周辺で、燃料タンクなどが落下した事故も起こしています。これら

の事故に関しても、原因究明やその後の事故対策等は明らかにされていません。戦闘機訓練事故に対する住民の危機感が強くなっています。

大きな事故は、いくつかの小さな事故の対応をないがしろすることから生じます。万が一にも戦闘機の墜落事故が生じたら、住民が犠牲になる可能性もあります。最悪の場合、東海第二原発や、放射性物質を大量に扱う研究施設へ墜落する可能性もあります。大事故はいつでも「想定外」の形を取って現れるのです。

最悪の事態を考えるなら、「住民に不安を与えるから公表しなかった」とか「原因は不明だが訓練は継続する」などは、まともな人間のすることではありません。

地域住民の願いは、今回の事故原因究明を徹底し、原因が明らかになるまで訓練を停止することです。それが地域住民の不安を解消するための、最低の責任の取り方です。

よって、以下の要請を致します。誠意を持って対応して下さい。

1. 事故の原因究明を徹底して行い、具体的な再発防止の対策を立て、究明された原因やその後の対策について、地域住民に公表すること。
2. 事故の原因の究明と、再発防止の具体的な対策が明らかになるまで、戦闘機の飛行訓練を再開しないこと。

以上



【百里基地正門前での申し入れ】

2月11日 百里初午まつり

今年も実施します！

各平和の会（平和委員会）みなさんは、お誘い合いわせて、ご参加ください。

## 第5回常任理事会開催のお知らせ

前回の常任理事会の申し合わせに従い、下記のとおり常任委員会を開催します。ご出席のほど、よろしくお願い致します。

1.とき 2012年 1月 14日（土）  
午後2時 ~ 5時

2.ところ 県平和委員会 事務局

### 3.議題

仲間づくり

東海第二原発の廃炉をめざすとりのくみ  
・署名活動・脱原発県民集会のとりくみ  
春のとりくみについて

### 4.その他

- ・止むを得ず欠席の場合事前にご連絡下さい。
- ・駐車場が狭いのでご注意下さい。

平和かわら版 No. 613 (12月25日/1月5日) 別刷り

(1/2ページ)



## 今年も草の根から力をあわせて！！



12月18日(日)、第4回常任理事会が開催しました。国会が終了し、野田政権が、消費税増税10%の具体化やTPPへの参加、普天間基地の辺野古移転等、国民生活破壊に邁進し、日米安保条約絶対と大企業奉仕をあらさまにしている中での開催でした。

5月以来点検作業に入っている東海第二原発が、再点検終了を大幅延長し、来年8月となりましたが、その間も水漏れなどの事故を頻発しています。東海第二原発は廃炉しかありません。県知事の煮え切らない態度を取っています。東海第二原発廃炉宣言をしている村上村長の声を生かすためにも、私たちの取り組み強化が重要です。県内でもいくつかの自治体で東海第二原発再稼働反対・廃炉の決議を出しています。1月の東海村議会議員選挙は、村上村長が「脱原発」を表明していることから、「原発推進」か、それとも「脱原発」かが争点にならざるを得ません。私たちは、脱原発を主張する候補者を主体的に応援することが求められています。

1. 「東海第二原発を廃炉に」のチラシ配布は、東海村では全所帯14000軒、結城市では結城市職員組合と共同で市内全所帯18000軒、緒川では全所帯2500軒に新聞折り込みを行ないました。石岡では各戸配布や新聞折り込み等で、6000枚、内原友部では7000枚、水戸市では手撒きで3500枚、ひたちなかでは3000枚を配布しています。また鹿行では、神栖・鹿嶋・潮来の各市に1000枚ずつ、合計3000枚を配布しました。その他の地域でも目標を持ち、力量に応じて取り組みました。県事務局では、民商と農民連と連携し、組合発行の新聞に折り込み、会員に送付するようにし、10万枚の目標をほぼ達成しました。
2. 「脱原発署名」は、署名の形式や内容が他団体と同様で、最終的な集約が別の団体に流れるなどもあり、現在の集約は2500筆にとどまっています。今後も当初の目標どおり、会員一人あたり20筆に引き続き取り組みました。
3. 「森住卓氏」講演)は、11/20(日)、水戸・青少年会館で開催され、200名収容の会場は満席になりました。各平和の会・平和委員会が参加者数の目標を立て、具体的な個人名で確認する取り組みを行いました。県では、地域へのオルグを実施、またチラシを作成すると同時に、新聞折り込み(3万)、新聞社への要請(記者クラブ)等に取り組みしました。

講演は、森住氏が現地で撮影した動画や写真を中心に充実した集会になりました。茨城新聞、毎日新聞、東京新聞、んぶん赤旗等に取り上げられました。

4. 平和広告は、「茨城新聞(11月20日(日))」に掲載しました。賛同者目標を、「個人=1200以上団体=130以上」を掲げ、地域でも具体的な目標を掲げ、昨年同様の成果をあげました。
5. 「平和大会 in 沖繩」は、「オール沖繩」のたかひいに連帯し、1300人(沖繩県から700人)が参加し、4年ぶりに、沖繩県那覇市で開催されました。茨城から3人が参加しました。24・25の両日、那覇市で行なわれた国際フォーラムでは、米国・ハワイやグアム、フィリピン、韓国など、6つの国、地域の代表が初めて参加し、「軍事基地のない、非核・平和のアジア・太平洋をめざして」、基地撤去の行動や課題などを議論しています。

6. 仲間づくりは、現在34人加入(月平均で5人弱)です。毎月5名以上の会員拡大を「草の根運動として」進めてきました。結果は、6月=13人 7月=6人 8月=2人 9月=2人 10月=6人 11月=5人 12月=5人です。7ヶ月で総計39人の新しい仲間を迎えました。

今後の仲間づくりは、2012年の大会まで、100人の新しい仲間を迎えるため、昨年と同様、県事務局に「拡大対策本部」を設置します。各地域では、

- ①役員会等の会議を開き、話し合いを行なう。
- ②拡大推進員を複数確認する。
- ③継続的に取り組み。
- ④他の地域との連携を深めながら進める。
- ⑤家族会員の拡大にとりくむ。

北茨城九条の会、3周年のつどい  
～講演「原発について考える」～

北茨城平和の会・鈴木孝夫

北茨城九条の会では、12月3日、3周年のつどいを開きました。4月に予定していましたが震災で中止、あらためての仕切り直しました。内容も、原発事故をふまえたプログラムとなりました。新聞折り込みをみてきた人や、インターネットで知ったという人などいても、悪天候にもかかわらず参加者は60人余、盛会でした。

第一部では、主催者あいさつした代表の藤田いつおさんから、会として脱原発の方向ですすめていくことを確認したい旨の提案がありました。同じく、代表の西村洋子さん(70歳)が、ご自身がパソコンで準備されたフアイルをプロジェクタで上映しながら活動報告をおこないました。

第二部は、原研労組委員長の岩井孝さんの講演。日本の原子力発電はどのようにすすめられてきたのか、福島第一原発で何が起こったのか、いま何が問題なのか、これからどうするか、などについて話していただきました。深い内容を、とてもわかりやすく説明してもらったと参加者から感想が寄せられました。

最後は、参加者からの一言のコーナー。熱い思いが語られました。青森県の再処理工場をめぐる危険を強く訴える人、ご息が原発に関わる仕事をしているが「原発には反対」と断じる人など、まったく時間が足りませんでした。

この日、たまたま被災地へのボランティアで来市された青年法律家協会の弁護士さんたちも参加してくれました。「正直、この地域で、なにより参加者数の多さ驚きました。もつと若い人の姿が多ければいいなというのは、どこでもいえる課題ですね」と感想をいただきました。

